



学校だより

YY-NET 公式サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/mitakedai/>

第377号

横浜市立みたけ台中学校

2月号

平成30年1月30日

大人との会話から生まれる子どもの育ちを

副校長 鈴木 彰

早いもので、本年度の学校生活も残すところ2か月となりました。子どもたちは、次の学年に進級することを楽しみにしたり目標にしたりしながら4月の新しい自分を夢見ています。

そのような中で、3年生は卒業後の道を見据えて様々なチャレンジをしています。その取組の一環として、入試を控えた1月中旬に、地域の方々による「面接指導」が行われました。地域コーディネーターの馬川様が声をかけてくださり、たくさんの方が放課後の面接指導のために来校してくださいました。ありがとうございました。

面接指導終了後に、「あらたまった場で話をするのは難しいですね。フォーマルな場で、姿勢・仕草などを意識しながら正しい言葉遣いで話す機会はあまりありませんからね。」という話題がありました。私も、確かにそのとおりだと思いました。いつもにぎやかにしゃべっている子が、人前に出るときちゃんと話せない様子はよく見られます。

なぜだろう…と考えました。そして、原因は大人にもあるなと思いました。「話さなくてもすむ社会(環境)」を作ってしまったなあと思うのです。



たとえば、子どもに買い物を頼んだときの様子を考えてみましょう。

買い物をするとき便利なのがコンビニです。一つの店でたいていの物はそろいます。さて、子どもたちは、コンビニではどのように買い物をするのでしょうか。

買い物に行く子どもが、お金を持って家を出ます。店に着くと、品物が分かりやすく並んでいます。店内で品物を選んで取るとレジへ…。「480円です。」などと金額を聞いてお金を払い、おつりをもらって店を出ます。そして、すべて無事にすませて家に帰ってきます。

さて…、この子は家を出てから帰るまでの間、何を話したのでしょうか。

ほとんどの場合、子どもはひと言も話すことなく帰ってくるということに気づきます。

ちょっと昔は、八百屋や魚屋に行ったら「何にしますか？」と聞かれるので、「大根とたまねぎをください。」「塩焼きにする魚は何がいいですか？」などと答えたり尋ねたりしたものです。「買い物をするなんてえらいね。」なんて言われながら気分よく帰ってきたでしょう。

しかし今は、戸外で家族以外の大人と会話をする機会が極端に少ない社会になってしまいました。便利と引き換えにコミュニケーションの少ない世の中を私たちが作ってしまったように思うのです。

みたけ台は素敵な街だと思います。みたけ台中の保護者のみなさんは、本当に子どものことを思い、しっかりとした考えをもって子育てをしています。そして、地域の皆様も子どもたちを思い、地域の方で子どもを育ててくださっています。ここは、そんな街です。皆様の子育てに感謝しつつ、今のみたけ台を大切にしながら、さらに子どもたちがよりよく成長する学校づくり・街づくりができればと、心から思っています。

情報モラル学習

1月12日（金）1校時全校生徒を対象に LINE 株式会社



松島高弘様による情報モラル学習をおこないました。代表生徒 2 名にバスケットボールを投げ合うように指示した後、「相手が小さな子ならどのように投げますか？」との問いに「下から転がして受け取りやすいようにする。」と回答すると、講師の先生は「言葉のキャッチボールも同様です。相手のことを考えることが大切です。」と説明してく



ださいました。

さらに、「まじめだね」「おとなしいね」「一生懸命だね」「個性的だね」「マイペースだね」と言われたときにどの言葉がいちばん嫌ですかと全校生徒に問うと、本校では「個性的だね」「マイペースだね」と言われるのが嫌であると答えた生徒が多かったのですが、他の言葉がいちばん嫌と手を挙げた生徒も数名いることが分かりました。同じ言葉を発しても受け手によって受け止め方はさまざまであり、嫌なことも人によって異なることを教えていただきました。



SNS 等は文字やスタンプでのキャッチボールとなるので互いの表情や感情は会話以上に伝えにくく、慎重に扱わないと誤解をまねき、大きなトラブルに繋がることもあるので注意することもお話しいただきました。

<生徒の感想より>

- ・表情が見えないから、悪気がなくても相手を傷つけてしまうことがあることに驚きました。
- ・自分が嫌じゃないことが相手にとっては嫌な思いをしているという例があったので送信するときにもう一回考えて送りたいと思います。
- ・人それぞれ嫌なことや嬉しいことは違う。そしてインターネットは声色や表情が見えないから誤解がおこりやすい。

英語科 SEPRO

SEPRO (Super English Program) は横浜市が国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力育成のための施策として取り組んでいるものであり、2年前より毎年実施しています。1月16日（火）～18日（木）に青葉区内のALT（外国人講師）の方7名がみたけ台中学校に集まり各学級で英語の授業をおこないました。

子どもたちはさまざまな国の文化に触れ、英語を使ったコミュニケーションが深まりました。



第2回学校保健委員会

1月23日（火）に第二回学校保健委員会が行われました。今回のテーマは「みたけ台中学校のけがを減らそう！」でした。参加者は生徒保健委員・部活動代表者・PTA 保健委員・学校薬剤師・校長・副校長と職員です。前半30分は、保健委員の生徒が校内のけがの発生状況をまとめたり、けがを防ぐために考えたりしたことを発表しました。後半1時間は健康運動実践指導者の石井佳代子先生よりけが予防のストレッチを教えてもらいました。各学級で保健委員から対策も含めて伝達し、啓発活動としました。



1年生職業講話

1月26日（金）の5・6時間目に、1年生を対象に職業講話をおこないました。進路学習（キャリア教育）の一環としておこなっているもので、先月の学校だよりでお伝えした2年次の職場体験につながります。今年度も6業種の方々に来校いただき、それぞれのコースに分かれて、その職業に関するお話を伺い、簡単な体験をさせていただきました。その中の最後には質問やインタビューをおこない、職業に就いたきっかけや留意点等をお伺いして職業についての意識を高めました。授業参観時に各学級で自分が体験したことをグループで発表する予定です。



パティシエ「PUISSANCE」



警察官「青葉警察署交通指導課」



薬剤師「本校薬剤師 永田浩美様」



放送局員「イツコム」



植木職人「鈴木岳様」



消防士「鴨志田消防出張所」

<生徒の感想より>

☆僕が一番印象に残ったことは、道具のことです。はさみで植木をおろす（剪定）時に植木の種類によってはさみをかえていることに驚きました。本日はありがとうございました。

☆おまわりさんがどのような仕事をしているかを知ることができました。自分はまだなりたい夢は決まっていなくても、どのようにしてなりたい仕事を決めるかを教わることで良かったです。

☆AED体験をさせていただきました。その時に私たちは押す力が弱かったりすぐに疲れてしまいました。体力が必要であり、周囲の人と協力できるようにコミュニケーションを取ることが大切だと感じました。本日は本当にありがとうございました。